

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

第一部 海鷹丸航海調査報告 平成17年度(2005年度)
第18次航海報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/287

4.5 調査報告 (Survey Report)

4.5.1 寄港地事情 (Report of port's guidance)

小池義夫、林敏史、浜田浩明、山崎紗衣子、喜多澤彰、大鳥居治平、関屋千絵子

東京海洋大学海洋科学部練習船 (〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7)

Yoshio KOIKE, Toshifumi HAYASHI, Hiroaki HAMADA, Saeko YAMAZAKI, Akira KITAZAWA,

Jihei OOTORII and Chieko SEKIYA

Department of Training ship Faculty of Marine Science, Tokyo University of Marine Science and

Technology (4-5-7 Konan, Minato-ku, Tokyo 108-8477, Japan)

4.5.1.1 ペナン入港報告 (Report of Pinang)

1. 概要

本船は東京を出港し、最初の寄港地であるマレーシア、ペナンに入港した。ペナン入港は燃料の補給、食料搬入及び見学を目的とした。ペナンはマレーシアでクアラルンプールに次ぐ第2の都市で、港は最も大きな港の一つである (Photo. 1)。ペナン島の南側とマレー半島を結ぶ橋 (Photo. 2) があり、産業貿易とマレー半島北部における農業が盛んである。公用語はマレー語であるが、英語も広く使われている。使用時間は UTC-8h。



Photo.1 Custom Clock Tower



Photo.2 Pinang Bridge

2. 入港

入港国 : Malaysia Pinang、位置 : 5° 25' N 100° 21' E、入港期間 : 平成 17 年 12 月 1 日
～6 日

ペナンは IALA 海上浮標識 A 地域に分類されている。航路は北航路と南航路があり、本船は水深が深く通航しやすい北航路から入港した。本船航行時には、北航路は漁船が多く航路付近では底刺し網を行っていた。

2005 年 12 月 1 日航程 (Fig. 1)

- 10 : 20 入港用意・総員を配置部署
- 10 : 25 エンジン及び舵を種々使用し航路航行
- 10 : 34 パイロット Mr. Ilias 乗船
(パイロットボート右舷付け)
- 11 : 40 ペナン港に投錨 (右舷錨) 及び甲板部署解散
- 11 : 43 F.W.E 11 : 47 パイロット下船

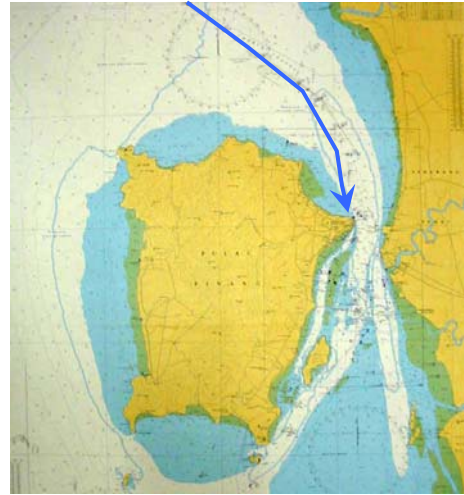


Fig. 1 BA Chart 1368

入港時に乗船した、パイロットによると、ペナン航路での通航方法は、国際法による右側通航とは異なり、右舷対右舷の左側通航が一般的である。なお流れが強く 1 日に 2 回反転した。(Fig. 2)

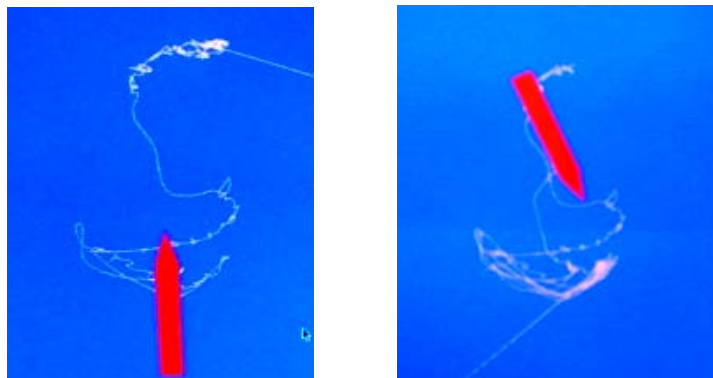


Fig. 2 2005 年 12 月 3 日 6:00 LMT から 2005 年 12 月 3 日 10:00 までの船位変化

3. パイロット

水先案内区域はペナンと Seberang Perai の本島との間であり、国内総トン数が 600 トン以上の船舶に対し強制であるため、本船はパイロットを取りペナン港へ入港した。パイロットは 10 時 34 分、Pilot boat (タグボート) (Photo. 1) から本船右舷側より乗船した。

パイロットボートは赤く、黒い字で PILOT と記

されていた (Photo. 1)。入港時は昼間であったので、パイロットボートであることを示す上半分が白で下半分が赤の旗を揚げていた。夜間は国際的に定められた水先案内の信号を発している。



Photo. 2 Pilot Boat

4. 燃料積込

燃料積込みは入港日に行った。今回は MGO (マリンガスオイル：日本で言う軽油) を積み込んだ。ペナンでは錨泊による入港であったため、本船の右舷側にバージ船 (MT.AROWANA VALENCIA：日本の廃船バージを利用したもので、旧船名は鶴帝丸) をロングサイドし積込を行った。



Photo.3 オイルバージによる給油

また積込ロピースは日本で使用する 10K-100 を使用することができた。積込み量は 15 度換算で 152KL 積込んだ。速度 1.3KL/min で、2 時間で積込むことができた。(Photo.3)

5. 入港通信及び入港手続き

入港後すぐに代理店、検疫官、入国管理官が来船した。(Photo.4)

今回は税関の人間が入国管理官の代行を行った。



Photo. 4 代理店、検疫官との手続き

入港通信

①代理店：NYK LINE (MALAYSIA) SDN. BHD.

TEL: 60-4-2636888 FAX: 60-4-2615191/33828 EMAIL: abudul_rahman@sg.nykline.com

入港 1 週間前、入港情報第 1 報をインマル経由 FAX で通報した。同通報では以下の要請をした。
本船 ETA、水先人手配、着岸時補油、調査員乗船手続き、在ペナン領事館儀礼訪問、清水及び塵芥処理、野菜発注 (Photo. 5) その他バス観光見積依頼、当港での乗船調査員の入国手続き及び本船までの車の手配、当港出港時間、さらに東京港停泊時に代理店と電子メールで打ち合わせていた書類を以下の通り FAX 送付した。

CREW LIST (CADET 及び RESEARCHER を含めた。)

LIST OF RESEARCHERS EMBARKING AT PENANG.

DERATTING CERTIFICATE.

ISPS CERTIFICATE



Photo. 5 船食のボート

2 日後、ETA、現地給油業者を FAX した。

入港 3 日前には電子メールで野菜の積込みを要請、ISPS CODE に関して問い合わせを行った。また念のため同文を FAX 送付した。同日中には代理店から返事があり、要請事項は手配した、の他に IMMIGRATION 手続きのため CREW, CADET, RESEARCHER は別個に名簿作製するよう依頼があった。

入港 2 日前、代理店への返事と同時に要請に応じて CREW LIST、CADET LIST、RESEARCHER LIST を FAX 送信した。

入港当日朝には ETA 変更を連絡した。またパイロット事務所には通報済みと注記した。

* 第 1 報をインマルサット経由で FAX 送信したが、途中でエラーが発生したため何度か再送信した。念のため代理店へ電話を入れ受信状況を確認したところ合計 7 枚送信のうち、5 枚だけ受信されていた。このため再度未送付になった部分を送信した。入港 3 日ほど前からは全く問題なく FAX 送信できたことから、この時は衛星の電波レベルが弱かったためと判断できた。

* 入港時には Q-FLAG、2/5 FLAG FOR IMMIGRATION を揚げて入港するよう要請された。

* VISA は船員手帳所有者、本船乗船中の学生 (パスポートも所有していたが全て国土交通省発給の 学生証明書でおとした)、パスポート持参の調査員には必要なかった。入出国スタンプはパスポートにのみ押された。なお入港手続きだけではなく出港時も船員手帳、学生証明書、パス

ポートを代理店が IMMIGRATION まで持参してクリアランスの手続きをした。

* 保安通信については ISPS CERTIFICATE を FAX 送付するだけで済んだ。

* 無線検疫手続きは無い。入港後、通常の検疫手続き終了後 FREE PRATIQUE となる。

②港務通信 (水先人手配)

入港の1週間前、代理店へ入港情報通報時に水先人を要請した。その後は代理店と連絡の際、適宜 ETA を通報した。入港3時間前には PINANG PORT CONTROL/VHF Ch. 16 へ ETA 通報を実施した。2時間前には PINANG PILOT/VHF Ch. 12 へ ETA 通報、パイロット乗船の打ち合わせをした。

③無線検疫通報

無線検疫は実施されていない。入港後、通常手続きがなされた。本船は Q 旗を掲げて入港、手続き終了後、Q 旗を降ろすよう検疫官の指示があった。

④保安通信 代理店の項のとおり。

⑤船位通報 実施されていない。

6. 出港

出港時も入港時と同じくパイロット (Mr.Zamri) 乗船の元、北航路を航行してペナンを出港した。

2005 年 12 月 6 日航程

08 : 48 パイロット Mr.Zamri 乗船 09 : 13 出港用意・総員を配置部署につけた

09 : 14 右錨を巻き始めた 09 : 20 錨が up & down の状態になった。

09 : 55 ペナン北航路に入った。 10 : 05 パイロット下船 10 : 36 甲板部署解散

参考文献

ADMIRALTY SAILING DIRECTIONS

MALACCA STRAIT AND WEST COAST OF SUMATERA PILOT(NP44)

PUBLISHED OF THE UNITED KINGDOM HYDROGRAPHIC OFFICE